

新潟市水族館指定管理者 平成24年度事業計画書

1. 施設の管理・運営に関する業務

(1) 基本姿勢

「新潟市水族館の管理に関する基本協定書」「新潟市水族館の管理に関する年度協定書」に従い、「新潟市水族館条例」「新潟市水族館条例施行規則」及び、その他「新潟市水族館の管理運営業務を遂行する上で関連する法規」を遵守し、新潟市の示す「新潟市水族館の基本的使命」の具現化に向けて業務を推進します。

業務に必要な専門的知識や技能・資格等を備えた職員を配置し、平成2年の開館当初から培ってきた豊富な知識と経験を生かし、「安全・安心の確保」「安定した施設運営」を心掛け、効果的かつ効率的な管理運営を行っていきます。また、今年度の開館期間はリニューアル工事のため4月から8月までとなります。

(2) 入館者・入館料収入

「新潟市水族館条例」「新潟市水族館条例施行規則」に則り、適正に入館料徴収事務を行っていきます。

平成24年度の入館者数及び入館料収入の目標値は下記のとおりです。(4月～8月)

	目標値	目標値の設定根拠
入館者数	302,000人 以上	新潟市24年度当初予算(端数整理)
入館料収入	291,000千円 以上	

常におもてなしの心を持ち、「来てよかった、また来たい」と感じてもらえるようなサービス提供を心掛け、リピーターの確保に努めていきます。

(3) 臨時開館・閉館及び開館時間の変更

条例上、水族館の休館日は12月29日から翌年1月3日、開館時間は午前9時から午後5時までとなっていますが、多客期の市民サービス及び法定点検等のため、新潟市と協議のうえ、以下の期間について臨時開館・休館、開館時間延長を実施したいと考えています。(リニューアル工事のため変則的)

- ① 臨時開館(年始)… リニューアル工事のため開館しない(例年は1月2日・3日)
- ② 臨時閉館(電気設備法定点検等)… リニューアル工事のため閉館中(例年は3月上旬)
- ③ 開館時間変更
 - a. GW… 平成24年5月3日・4日・5日
開館時間30分繰上…午前8時30分開館
 - b. 海の日3連休…平成24年7月15日・16日
開館時間30分繰上…午前8時30分開館
 - c. 夏休み…平成24年7月28日～8月26日の土曜・日曜日(下記お盆期間を除く)
開館時間30分繰上及び閉館時間1時間繰下…午前8時30分～午後6時閉館
 - d. お盆… 平成24年8月13日～16日
開館時間30分繰上及び閉館時間1時間繰下…午前8時30分～午後6時閉館

2. 事業の実施に関する業務

(1) 水族館展示基礎部門（常設展示）

約 450 種、20,000 点の魚類等の飼育展示規模を維持するとともに、科学的配慮に基づく展示、生物の収集、育成、訓練に努め、展示内容の魅力の向上を図ります。来館者に対する正確かつタイムリーな情報提供に努め、常に新鮮味のある、魅力溢れる常設展示を心掛けます。

また、解説を含むプレゼンテーション型展示として、イルカショー、トドの給餌タイム、ラッコの給餌タイムを通年で実施します。

(2) 啓発・普及部門

①特別展の企画運営

季節的かつテーマに基づく特別展示を行い、常設展示を補完します。

a. 春期特別展「鳥屋野潟の水生生物」

開催期間…平成 24 年 4 月 28 日（土）～5 月 31 日（木）

身近な自然の大切さについて考えるきっかけとして、市街地近郊にある貴重な大規模水域「鳥屋野潟」の水生生物を紹介します。

b. 夏期特別展「ハゼ展（仮称）」

開催期間…平成 24 年 7 月 21 日（土）～8 月 31 日（金）

ハゼ科魚類の分類・生態などについて、生体やパネル等を用いて分かりやすく解説します。

c. 臨時特別展示

開催時期…随時

小規模水槽による季節展示等を行います。

②いきもの教室の企画運営

水生生物に関する知識の普及と生き物への理解を深めることを目的に、屋内での観察・実験や、屋外での自然観察会などを毎月一回の頻度で週末に実施します。季節感も考慮したテーマ設定を行い、また、対象年齢により内容と解説方法にも工夫を施すことで、参加者全員が楽しく理解を深められるように心掛けます。

③バックヤードツアーの実施

通常は公開していない水族館のバックヤードを職員の引率で見学してもらいます。

水質管理の仕組みや餌の解説等を通じて、水生生物やその生息環境について関心を高めてもらいます。

1 回約 30 分間

平日…2 回/日、1 回 10 名程度

土・日・祝日…3 回/日、1 回 10～20 名程度

④ペンギンガイドの実施

バックヤードで、パネル、巣箱、羽毛、卵の標本やレプリカを用いて、分類や生態、生息地の環境、フンボルトペンギンの絶滅に瀕した背景、生息地域外保全活動、繁殖の実施等の解説を行い、ペンギン類とその生息環境への理解を深めてもらいます。

1回/日、約30分間・10名程度

⑤タッチ水槽ガイド

タッチ水槽の脇で、簡単な実験をお見せしながら、生き物の生態を紹介します。

1回/日（祝日を除く月～金曜日）、約15分・15名程度

⑥サマースクールの企画運営

夏休み期間中に、普段接する機会の少ない生き物に直接触れ合い、学習できる体験型プログラムを実施します。水生生物に関する正確な情報を提供することで、野生種の生存への関心を深めてもらい、環境保全について考える機会にしてもらいます。

※平成23年度には以下のプログラムを実施。平成24年度も生物の負担（体調）等を勘案しながらとなりますが、同様のプログラムを実施する予定です

a. ドルフィンスクール

イルカの正確な知識を深めてもらうことを目的に、主に児童と保護者、生徒を対象とした受講や体験するプログラムを実施します。写真や標本を用いて鯨類の分類、雄雌の違い、訓練、健康管理などに関する講義を行うことにより、鯨類の正確な知識や訓練の必要性を学んでもらいます。その後、イルカの観察、ボディーチェック体験等を通して、実際に間近でイルカの正確な体の形などを楽しんでもらいます。

b. イルカトレーナー体験

イルカ学、飼育環境を学んでもらうことを目的に、高校生以上を対象としたトレーナーの日常業務の一部を体験する専門的なプログラムを実施します。イルカを飼育する上で不可欠な飼育環境の整備、餌の管理、健康管理、飼育日誌の記入等を体験的に学んでもらいます。また、イルカの訓練の目的を理解し、訓練により初めて可能となるボディーチェック等の健康管理、採取試料の分析も実際に体験してもらい、鯨類の正確な知識や訓練の必要性などを楽しんでもらいます。

c. ふれあい探検

生き物を間近から観察し、餌やり体験や実際に触れることで、水生生物の体のつくりや生態を楽しんでもらいます。

飼育員の仕事を体験することで、生き物に対する興味を深めてもらい、何気なく見ている水生生物にも興味を持ってもらうことを目指します。

主に児童、ファミリー層を対象としたプログラムを行います。

d. ナイトツアー

通常観ることのできない閉館後の夜の水槽の様子を観察してもらい、昼と夜での生き物

の活動の違いや外観の変化等をツアーガイド形式で解説することで、水生生物の生態や自然環境への関心を深めてもらいます。

主にファミリー層を対象としたプログラムを行います。

⑦児童絵画展 ※ リニューアル工事のため実施しません

⑧スポットガイド

個々の水槽の前でその水槽を担当している飼育員が解説します。担当者としての「こだわり」や「おすすめ観察ポイント」などを直接来館者に語りかけることで、より水生生物を身近に感じていただくことを目的とします。担当者や生物の状態により、不定期で実施。

⑨大人向け水族館講座

高校生以上の大人を対象にした事前応募型プログラムを実施します。23年度には5回連続参加を必須とする講座として実施しましたが、24年度は1回ごとの単独プログラムとして数回実施する予定です。このプログラムを実施することで生涯学習の場としての水族館の位置づけをより明確にします。また、大人が持っている潜在的な学びへの意欲に対応するプログラムを実施することで、啓発・普及プログラムに幅を持たせることを目的とします。

実施時期

平成24年4月から平成24年8月にかけて2～3回程度

内容

水族館ファンの大人を想定した「飼育の裏話」や水族を通した「科学的な話」「環境問題」など、また、いきもの教室を大人向けに再構成したプログラムなどを検討します。

(3) 学習・交流部門

①総合学習（文部科学省の提唱に基づく学習支援活動）の受け入れ

小・中・高等学校等からの要請により、生徒、児童に対して、質疑応答やキーパーエリアガイドを実施し、水族館や水生生物、環境への理解を深めてもらいます。

2回/日、内容により約30分～1時間、1回10名程度

②実習生の受け入れ

a. 博物館実習

大学からの要請により、学生に対して生物を対象とする博物館としての特性を指導します。

b. インターンシップ

大学からの要請により、学生に対して職業理解や人材育成等を目的に実施します。

c. 職業実習（業界研修）

専門学校からの要請により、専門学校生に対して職業理解や人材育成等を目的に実施します。

③講師派遣

新潟大学理学部附属臨海実験所主催の臨海実習に講師を派遣し、県内の高校生及び理科教育関係者に対して海洋生物の採集や観察、分類に関する指導を行います。

また、市内の学校等からの要請により、出張授業や職業講話等、教育現場への講師派遣を行います。

(4) 調査・研究部門

①飼育生物に関する調査研究：観察、実験等によって得られた知見の蓄積と公開

<魚類等の繁殖・育成に関する調査研究>

a. 魚類等の繁殖・育成

水族館で飼育している魚種の中で、飼育下で繁殖・育成している種はまだまだ少ないのが現状であることから、繁殖・育成に取り組むことで魚類学・生物学の知見の蓄積に貢献していきます。

大学等の専門研究機関と協力し、生物学等の知見の蓄積に貢献するとともに、研究結果等を展示にフィードバックしていきます。

b. 海産無脊椎動物の繁殖・育成に関する調査

刺胞動物門（クラゲ等）、軟体動物門（イカ等）、節足動物門（エビ等）の繁殖・育成に取り組み、生物学の知見の蓄積に貢献していきます。

<鯨類の繁殖生理に関する調査>

a. 雌の排卵周期についての調査

・非侵害的方法を用いた排卵周期推定技術の確立（継続）

イルカの膣粘液等を定期的に採取し、非侵害的方法を用いた排卵周期推定方法の確立を目指します。

b. 雄の発情期についての調査

・カマイルカの血清テストステロン濃度と精液中精子数に関する調査（継続）

雄の発情期の把握を目的に、飼育下カマイルカ雄の血清テストステロン濃度と精液中精子数の年変動について調査していきます。

<鰭脚類の繁殖生理に関する調査>

a. メスの性ホルモンについての季節変動（継続）

アザラシ類の血液採取を実施し、血清プロゲステロン濃度、血清エストロゲン濃度を測定することで、妊娠期、非妊娠期のホルモン周期を把握し、繁殖管理に役立てていきます。

b. 非侵害的方法を用いた妊娠推定技術の確立（継続）

アザラシ類の膣粘液を定期的に採取することで、非侵害的方法を用いた発情期、妊娠の推定方法の確立を目指します。

<死亡時の病理的な調査>

各臓器や血液等のサンプルを、必要に応じて大学機関等との連携により、組織学的検査や分子生物学的な検査を実施します。死亡動物の病因や死因の解明を目指し、得られた知見を飼育管理に役立てていきます。

②野生水族に関する調査研究：地域の自然史に関する知見の蓄積と公開

<漂着生物調査>

漂着生物の情報を収集し、生態学的・生物学的解明に役立てていきます。漂着情報を確認次第、現場に赴き計測と状態の確認、適宜標本の採取を行います。得られた情報及び試料は、館内の展示や体験プログラム等に反映させていきます。

<地域生物調査>

トゲウオ類、メダカ等地域に分布する水族の生物学的研究を行い、環境教育等に役立てていきます。

③希少水族に関する調査研究：繁殖、種保存活動、希少水族の生息域調査、生息域外保存に関する知見の蓄積と公開

<フンボルトペンギン>

日本動物園水族館協会種保存委員会の繁殖計画に則し、フンボルトペンギン（CITES I種）の生息域外保存（飼育下の繁殖等）に取り組みます。

<ラッコ>

日本動物園水族館協会種保存委員会の繁殖計画に則し、国内で急速に減少している飼育下のラッコの繁殖に取り組みます。特に同委員会では、ブリーディングローン（繁殖を目的とした賃借）等での繁殖率の向上を目指しており、これに呼応していきます。

<シナイモツゴ>

シナイモツゴ（環境省RDB 絶滅危惧ⅠA類）の生息域調査を行い、環境教育等に役立てていきます。また、日本動物園水族館協会種保存委員会の繁殖計画に則し、生息域外保存、繁殖技術の向上に取り組みます。

<ホトケドジョウ>

日本動物園水族館協会種保存委員会の繁殖計画に則し、ホトケドジョウ（環境省RDB 絶滅危惧ⅠB類）の生息域外保存、繁殖技術の向上に取り組みます。

<ハクバサンショウウオ>

日本動物園水族館協会種保存委員会の繁殖計画に則し、ハクバサンショウウオ（環境省RDB 絶滅危惧ⅠB類）の生息域外保存、繁殖技術の確立に取り組みます。

3. リニューアル工事への協力

本年度はリニューアル工事開始年度にあたり、年度途中の9月から閉館となるため、通常の管理運営業務の内容が変更されます。営業期間は縮小されますが、閉館までの期間は、通常の運営と閉館準備並びに閉館、および工期中の準備作業が発生します。これらの各業務につき、支障なく円滑な運営を期しているところです。

生物については、館内で仮収容し飼育継続するもの、外部施設に輸送し飼育委託するもの、新たに手配を要するものなど、仮収容、飼育、入手など実施計画に則るとともに、不測の事態にも対応できるよう、実態に即した合理的な判断に基づいた業務を実施します。

閉館中は、リニューアルオープン時の運営業務について、円滑な運営ができるよう各業務の抽出、人員配置、ハードソフト両面の策定等を遅滞なく行う予定です。展示計画に即し副展示物等の作成準備を行います。

リニューアルオープン後の詳細な運営内容を検討し、次年度の適切な管理運営計画を提案していきます。

4. 市民ボランティア

市民ボランティアの活動目的を大きく「水族館運営のパートナーとして」「来館者と水族館をつなぐ役割として」「生涯学習の場として」の3つとし、活動の運営を行います。いきもの教室の補助、館内案内、簡単な解説、職員や来館者との交流等の活動を通して、前記の3つがバランス良く達成できるように努めます。

ボランティアの自主性をより活性化するために、ボランティア向け研修プログラムを充実させていきます。水族館、来館者、ボランティアの3者が満足できる活動を推進することで、持続的なボランティア活動を目指します。

平成24年度途中からリニューアル工事のため休館することから、休館中はリニューアルオープン後のボランティア活動を見据えた研修、および新規募集を行います。

5. 他館等との協力

平成19年度に友好館提携を結んだ「アクアマリンふくしま」をはじめ、他の水族館・動物園、研究機関等と協力し、生物交換、飼育生物の繁殖や育成に関する情報交換・技術交流を活発に行っていきます。

行政や自然保護団体等と協力し、種の保存や自然保護の啓発に努めていきます。

6. 広報および広告宣伝

各メディアの特性を把握し、より「広報」的な活動を重視した取り組みを行っていきます。

特に、ウェブサイトによる情報発信は、他のメディアに比べて、正しい情報を分りやすく適切なタイミングで提供できることから、より充実した運用を行っていきます。

24年度はリニューアル工事による休館があることから、休館についての広報に重点を置きつつ、ゴールデンウィークや夏期に向けた広報にも力を入れる予定です。

広告宣伝は、これまでの実績をもとに、より効率的な方法および量になるように実施します。

9月から休館するため、4月から8月の間、特にゴールデンウィークと夏休みを重点に県内及び山形・福島でテレビCMを実施します。テレビ広告が非効率的な群馬と長野については、FMラジオ広告を実施します。なお、広告宣伝の中でも「リニューアルに伴う休館」の広報を実施する予定です。

平成18年度から行っている新聞折り込みチラシについては、平成23年度に引き続き、山形・福島・群馬・長野・埼玉の5県で展開するとともに、県内の一部で実施します。

7. アンケートの活用

館内アンケート、各教室参加者アンケート等を実施することで、来館者の声の収集に努め、その声を検証し、事業実施や事業の改善に役立てていきます。

「館内アンケート」は、満足度を数値化できるような設問を盛り込むことで、各種サービス別に来館者の客観的な評価やニーズの把握に努めます。また、「各教室参加者」等の水族館ファン層に対する「質的」なアンケート等を実施し、質的データ分析等の最新の分析方法を積極的に取り入れながら、よりきめ細やかなニーズを把握することで、展示の充実および来館者サービスの向上に努めます。

平成24年度 いきもの教室

定員 20人程度（応募多数の場合抽選）

参加費 ひとり300円

※小学3年生以下は保護者同伴（保護者も参加必要）

日時	タイトル	内容	対象
4月21日（土） 9：30～12：00	ウンチに注目！	生きもののウンチに注目して観察します。また、ビーバーのウンチを使って紙を作ります。	小学生以上
5月20日（日） 9：30～12：00	スルメイカを調べよう	スルメイカの雌雄を調べたり、口やえらなど体のつくりを解剖しながら観察します。	小学生以上
6月16日（土） 9：30～12：00	魚のうろこを観察しよう	魚のウロコってどんな形？役割りは？いろいろな種類はあるの？顕微鏡で観察しながら、ウロコの解説をします。	小学生以上
7月8日（日） 9：30～12：00	魚拓をつくろう	魚をじっくり観察して、魚拓をつくれます。	小学生以上
8月18日（土） 8：30～12：00	貝の標本づくり	地先海岸で貝を採集し、標本にします。	小学生以上